



労働者意識と権利が基本

ソ連反革命から35年、社会主義体制が解体され、対抗勢力がなくなつた資本主義は帝国主義の欲しいままになつていきます。ロシアによるウクライナへの軍事侵略をはじめ、イスラエルのガザ・ジェノサイド、そしてトランプ大統領による国家主権を踏みじじる武力攻撃。麻薬対策は口実だけで、「ベネズエラの石油は米国のもの」と公言しています。ベネズエラは原油の埋蔵量で世界一、そして有数の原油産出国であるイランに対しても軍事介入を画策し、豊富な鉱物資源が眠るグリーンランドの領有を要求しています。

国際法も国連憲章も無視した力による政治です。高市政権もこれを抑えるのではなく、台湾有事を煽り、軍事企業に奉仕する防衛費の倍増と武器輸出拡大を進めています。

これに対抗すべき労働者階級の党も労働組合も解体・

縮小され、平和も、労働者の権利も生活も守れなくなり、指針と拠り所を失つた労働者の不満と不安は、排外主義や極右に掠め取られ、国民意識の右傾化が進んでいます。

闘うべき組織は小さくなる一方で、対抗しえず、何をやつても駄目なようなあきらめが生まれます。しかし、平和を守る、人権と労働者の生活を守る、そして社会を変えるためには、労働者が組織的に闘う以外にはありません。労働者意識、労働者としての誇りと歴史的使命、資本主義ではダメだという労働者の闘いをもう一度、下からつくり出すことが求められています。資本主義の構造と法則性、そしてその矛盾の暴露と廃棄を示す科学的社会主義理論を深め、広げることです。労働者という言葉葉さえ死語になりつつある中で、困難な作業です。しかし、人間が人間として生きられる社会、労働者の解放は、一人ひとりの闘いの積み重ねからしか生まれません。

労働大学企画編集委員 細川 正